



おぐら
尾倉

<校訓>
自主
創造
協力



令和4年12月13日(火)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

令和4年度中学校文化連盟『弁論大会』

おめでとう！ 優秀賞受賞 3年 高尾 未空さん

令和4年度中学校文化連盟『弁論大会』が、12月7日(水)黒崎ひびしんホール中ホールで開催されました。本校からは、3年2組の高尾未空さんが参加し、見事「優秀賞」を受賞しました。おめでとうございます！

この弁論大会は、「自分の考え・主張を相手に説得力ある言葉で伝え、共感を得るための技能を磨く機会を設け、社会で活躍する人材の育成を図る」ことを目的としています。評価の観点は、「論旨・感銘度・態度・時間」などで、高尾さんはどの観点でも高い評価を受けました。引率の奥村先生も、「観客に訴える姿勢は一番だった」と褒めてくださいました。

実は、この弁論大会には続きがあります。翌日の12月8日(木)朝に審査委員長の石峯中 本田校長先生から連絡がありました。内容は次の通りです。

「まずは、優秀賞受賞おめでとうございます。栗原校長先生にぜひ伝えたいことがあります。高尾さんのことです。表彰式が終わり、先生方が片付けを始めたとき、高尾さんが黙って、片付けを手伝っていました。その姿が、本当に『自然体』で、審査委員の校長先生たちも『彼女の姿が一番だ』と話題になりました。弁論も素晴らしかったのですが、周りを見て自主的に行動できる姿に感動しました。ぜひ、高尾さんと奥村先生に伝えてください」

ということでした。

サッカーでもそうでしたね。結果に関係ないところで、ありのままの姿を出せるかー高尾さんの行動(考動)が教えてくれているのではないのでしょうか。右は高尾さんの発表した内容です。



新型コロナウイルス。このウイルスの拡大によって、私たちの生活は大きく変わりました。私の中学校生活も入学式がないまま、不安と緊張の中、マスク生活や分散登校でお互いの顔も見ることができず、我慢ばかりのスタートとなりました。振り返ってみると、「今年も例年通りにはいきませんが…」という言葉がたくさん耳にしてきました。しかし、私はその中で大切なことを学ぶことができました。それは、与えられた状況の中でどれだけ輝くことができるかです。

今、あなたは輝けていますか？

私は一年間文化図書委員長として活動してきました。生徒会に入ったばかりの頃は、みんなを引っ張っていけるのか、堂々とした姿で前に立てるのか、私には全く自信がありませんでした。消極的な方だった私は、人前に立つと、緊張でうまく話せなくなり、落ち込み、涙を流したこともありました。しかし、ある時から私の考えは大きく変わりました。せつかく先輩から受け継いだこの役職、このままの自分では無駄にするだけだと思うようになりました。それからは、人前に立つときは声を大きくしたり、身振り手振りを付け加えたりして話すようになりました。「最近良くなったね。」と褒めてもらう機会もあり、だんだん自信がついていきました。もっと褒めてもらいたい、後輩にいい姿を見せたいという欲も出てきました。それまでの自分からは想像もできない自分へと変わっていきました。

去年はコロナ禍の中、文化図書委員会の取り組みとして、オンラインで絵本の朗読をしました。今年の10月は「北九州子ども読書の日」の取り組みとして、全てのクラスを回って、オススメの本を紹介しました。取り組みをした後は、図書室の利用者数が増え、本の貸出冊数も増えていました。オススメした本を借りてくれた時や、「ポスター良かったよ」「あの本面白かったよ」と言ってもらえた時は、とても嬉しかったです。話を聞いてもらえることがこんなにも嬉しいことだとは、委員長になるまで知りませんでした。この気づきは私が大きく成長できたきっかけの一つだと思っています。

私の中学校生活は、いろいろなことが、規模の縮小、時間の短縮とされてきました。しかし、どれも充実したものになり、とても満足しています。一人一人の考えと行動次第で、いくらでも楽しむことができるのです。自分の気持ちは自分で変えるしかありません。つまらなそうだからやらない、それでは何も変わりません。やってみたら何か変わるかもしれません。何か変わるかもと思って行動する人には、良い結果が待っていると思います。その過程の中で何か失敗があったとしても、それは自分自身の大きな経験値となるはずで、私たちは、どんな困難でも大きな壁でも、全てチャンスに変えることができるのです。チャンスはどこかに必ずあるものです。もしかすると、下の方に落ちているかもしれません。上の方に浮かんでいるかもしれません。そのチャンスをしっかりつかみ、どれだけの時間や手間をかけても、自分の経験や自信にしていきます。それを積み重ねていくことで、素晴らしい人へ、どんな状況でも輝ける人へと成長していけるのです。

これからも私は、与えられた状況の中で、未来に向かって精一杯輝けるように、全存在の全的表現を目指して頑張りたいと思います。

「与えられた状況の中で」

北九州市立尾倉中学校 三年 高尾未空
(原文のまま)